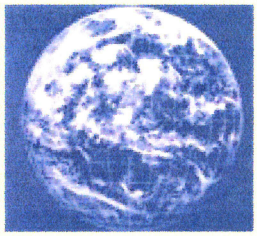
それと、日本の70年代後半から80年代にあったオブジェマガジン『遊』が個人的に好きだったもので。それに対するオマージュというかそれも込めて。『遊』という雑誌（不定期→季刊誌→月刊誌と変化）がどういう雑誌で、どう？好きだったのか？は、また別の機会に…長くなりそうだし。後にも先にもアンナ雑誌はなかったからね。その『遊』から鬼っ子のように生まれた爆裂突端ニューウェーヴ・ハードコア・トランス雑誌！　★10『HEAVEN』に至ってはもはや伝説の稀覯誌かもね。オンライン古書店等でも探せばあるとは思うよ。…とまぁ、こんな感じで“遊星”にしました。

ここからヌース宇宙論にジャンプするのが個人史的興味の変遷からしても自然なのでは、という思いで書いたんですが…。ちなみに、最初のエッセイは遊星観測所になっちゃったんですけど、あれは忙しい時に作ったもんで思わず観測所といってしまって、そうなってしまったのを、訂正するにはもう時間がない。みんなに迷惑をかけてしまうなぁということで、ゴーサイン。見切り発車でやっちゃたんですけど、基本的には当初から測候所なんですよ。

-測候所というのはどのあたりから？

測候所というイメージが好きなんです。こういった話をしはじめるときりがないんですけど、天文台とか測候所とかそういうイメージが好きなんですよ。たとえば灯台とか。なぜ好きなのかワカラナイんですけど（笑）。たとえば測候所といえば、学校でも理科室の前とか校庭の脇に★11 百葉箱とかありますよね。あの百葉箱がとても好きなんですね。木製で白い、あの、何かこう‥凛とした佇まいがとてもいい。百葉箱が何のためにあるかっていうと、この中には温度計とか湿度計とかが入っているんですよ。要するに気象庁が毎月、毎日湿度とか温度とかを発表しますよね、そういうのと同じシステムが学校の理科の勉強カリキュラムの中にあって、そのための教材設備なんですね。単なる設備といってしまうには、あまりにも惜しい、手の込んだ美しいオヴジェだと僕なんか思ってしまう。

それで例えば小学校とか中学校とかどこの学校にも昔はあったと思いますけど、理科クラブとかそういう生徒がさあ、毎日、朝早く来て地道にそこで測候するわけです。そういう作業、地道な作業の、作業するその佇まいが僕は好きなんですよ。なぜ好きなのかっていうと、ちょっと背景は気象庁とかと繋がるわけですが、気象庁、観測所、測候所、天文台とかそれらに共通するイメージが好きなんです。なぜ好きなのかっていうと、何が共通しているのかっていうと、宇宙を観測しているわけです。自然を観測しているといってもいい。それで毎日毎日自然を、空を、雲を、風を、水を、大気を測候している、観測しているというイメージが好きなんですよ。できたら、人生そういうふうにして終わりたいなと。

ですからTV番組でも天気予報が一番好きです。ＮＨＫなんかのオープニングのＣＧも好きですし、気象庁の地球外圏から見た大気圏、気象衛星『ひまわり』の画像でますよね。あの映像が好きですね～。あれだけでも、出来たら一日中観ていたい。ああいうサイトもインターネット等ではあるんじゃないかと思います。ネットはやってないので分かりませんが。あの★12 大気圏画像だけを一日中部屋のデザインとして壁に映しておきたい。